

骨髓移植経験者が演じる「いのち」の物語

白血病の青年と骨髓提供を依頼された女性
出会うことのない「患者」と「ドナー」二人を支える人たちの葛藤を描く
まったく新しい「医療エンターテインメント」

樋口大悟
松本若菜
岡田浩暉

武藤令子
大西武志
森下能幸

池田良
中村久美
小笠原大晃
柿本リーね
榎本桜
鈴木周哉
伊澤恵美子

みんな生きている ～二つ目の誕生日～

企画・原案:樋口大悟 脚本・監督:両沢和幸「ナースのお仕事」 プロデューサー:川田亮 榎本桜 エンディングテーマ「僕のヒーロー」 作詞:もろさわ和幸 作曲:鈴木周哉
ラインプロデューサー:畑田伸也 音楽:鈴木周哉 撮影:上野彰吾(USO) 美術:津留啓亮 録音:宋智瑞 編集:佐藤崇 助監督:斎沼康介 片元亮 衣裳:池田友紀 ヘアメイク:大岩乃里子
持道具:濱田千尋 衣裳助手:座喜味えり奈 プロデューサー:植杉山晴香 糸魚川製作担当:森原光昭 スチール:渡辺貴 カラリスト:VFx・福川実希 MAエンジニア:南裕貴弥
リーガルアドバイザー:網島正人 クラウドファンディング担当:渋谷雄大 HP担当:後藤勝平 デザイナー:尾野正人 宣伝プロデューサー:山口久美子 医療指導(相談):吉井由美 企画協力:橋本明子
製作:「みんな生きている ～二つ目の誕生日～」製作プロジェクト 製作プロダクション:リ・ボン117 制作協力:リアルメーカーズ 配給:宣伝:グリーボックス
プロジェクトパートナー:特定非営利活動法人血液情報広場・つばさ (認定)特定非営利活動法人リブ・フォー・ライフ美奈子基金
後援:日本骨髓バンク 糸魚川市



©2022「みんな生きている ～二つ目の誕生日～」製作プロジェクト

「この映画を作るまで僕の闘病生活は終わらないと思っていました」__樋口大悟(企画・原案・主演)

「今までの医療ドラマにはないリアルさと娯楽性の両立を求めて作りました」__両沢和幸(監督)

金銭の授受もなければ、誰かに称賛されることもない。そこにあるのは「生きたい」という思いと、それに答えようとする人間の善意だけ。

「助かるためには骨髄移植しかない」

松山大介(樋口大悟)は空手の講師をしながら、競技者としても全国大会を狙える実力者だった。ある日、稽古の最中に倒れて病院に運ばれると、白血病だと診断された。

「この俺が白血病?」最初は軽く考えていたが、病気は彼の人生を大きく変えた。闘病生活のなかで体力は衰え、空手もそして恋人さえも彼の元を去って行った。そしてドクターは言った。「助かるためには骨髄移植しかありません」

骨髄移植は血液を作る造血細胞を他人のものと入れ替えると言う治療法だが、白血球の型が合わなければ移植は出来ない。どんなに優秀なドクターがいても、造血細胞を提供してくれるドナーがいなければ成立しないのである。

彼を救う事が出来るのは、遠く新潟県糸魚川に住む桜井美智子(松本若菜)という女性だけだった。しかし彼女の家族は彼女がドナーになることに反対だった。

●プロダクションノート

クライマックスとなる骨髄採取の場面は、実際に採取医であったドクターが自ら演じるだけではなく、麻酔医や看護師の指導にも当たってもらい、今までにないリアルな骨髄採取シーンを撮影することが出来た。

ドナーとなる女性が住む場所は、主役樋口大悟の出身地新潟県糸魚川市に設定された。市の全面協力の元、数々の地元の名所でロケが行われた。最後の見せ場となる場面は、糸魚川駅前通りを全面封鎖し、迫力のある映像を撮影出来た。

シナリオは樋口大悟の実体験をベースに作られ、当時からの友人もそのまま友人役として出演している。日本骨髄バンクには初期段階から脚本の監修も含めて協力して頂き、実情に即したリアリティのある物語となっている。

今の僕が元気でいられるのは、僕に骨髄を提供してくれたドナーの方のお陰です。その方への感謝の気持ちと、今も闘病中の方たちに「こんなに元気になるんだよ」という励ましの気持ちを込めて自ら演じました。

企画・原案・主演・樋口大悟

公式サイト



min-iki.com

公式ツイッター



@eiga_miniki

日本骨髄バンク
スペシャルサイト



www.jmdp-donor-special.jp

2023年 **2.4** **±** 全国順次公開
特別鑑賞券¥1,500(税込)発売中!

新宿駅東南口階段下 甲州街道沿道ドコモショップ左入ル

新宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席